

【ロードマップ骨子（案）に対する評価】

- 取組を短期的・中期的・継続的に分けることに賛同。5つの能力をどこまで身に付けるのか、コンセンサスを得ることが、本検討会のアウトプットになると思う。そのアウトプットを政策とするにあたり、どの程度に費用がかかるのか、誰がその費用を負担するのかを検討しておく必要がある。
- 設定された優先セグメントに賛同。今後の詳細な分析を通じてより効果的な設定ができるとよいが、特に小学校入学前の未就学児が効果的だと思う。

【リテラシーを向上するためのコンテンツの届け方】

- よいコンテンツや仕組みができて、届かなければ意味がない。届け方を最重要課題として盛り込む事も検討して欲しい。特に高齢者には新聞、TVがかなり強いメディア。
- 教材等の中身の問題、届け方等のプロセスの問題の2つがあり、特に後者は重要。中身は、PF等が既に開発しているので、重複することなく連携するのか、あるいはメタコンテンツを作るのか、整理が必要。
- 自治体で高齢者への啓発を行っている消費生活相談員向けの講座を実施することで、一定レベルのリテラシーを教える講座ができるのではないか。技術的な問題はデジタル推進委員によるスマホ講座がある。
- 教材をボトムアップで地域に広げていく、現場に理解のあるコーディネーターとの連携が必要。
- 海外の例のように教材をモジュール化し、ワークショップなどを行う社会教育施設の職員がそれをもとにしてプログラムを作れるようにすることが重要。

【ポータルサイトの必要性】

- ターゲットによって届け方が異なり、リーチできる人数も変わってくる。ただ、セグメントごとの届け方を変えていくと膨大かつ整合性の問題が生じる。核となるポータルサイトをつくり、迷子にならないようにすべき。
- 対象と言われると抵抗がある人もいるので、アクセス数の多いサイトやニュースサイト、役所のサイトなどにポータルサイトのリンクをおくなど、自分が対象だとあからさまに示されるより、必要な人に届く形がよい。

【今後の取組事項について】

- 優先セグメントの一つとして青少年が設定されているが、青少年の発達段階に応じてさらに細分化するための検討を行うべき。
- 青少年は教育課程や各企業の取組等のアプローチがあるが、子育て層に対してどのように巻き込むかは課題。
- 今回の取組で作成したコンテンツについて、昨今出てきているPTA専用サービスに掲載する等して連携することも中長期的取組事項として考えられる。
- セグメントごとの習熟度について、現在子育て層の方が青少年よりも能力レベルが上に設定されているが、変わらないか、むしろ低い可能性もあり、それは考慮して検討すべき。
- 青少年が自分事として捉えることができるよう、失敗できる環境を作った上で教材を提供すべき。

【目指すべきゴール像・世代共通課題・身につけるべき能力について】

- 基礎的なインターネットの仕組みについて理解することも世代共通課題に入れるべき。また、課題(1)～(3)はそれぞれ理解や認識に関する課題が記載されており、それを受けて目指すべきゴール像についても、まず「ICTを理解し」、その上で利用、参画という流れにした方が良い。
- インターネット上の特性について用語を理解することが重要なのではなく、その現象が起きていることについて理解する方が重要である。また、身につけるべき能力について、「インターネット上の情報を取捨選択する能力」や「デジタル技術の利用に当たっての課題を発見する能力」も入れるべきではないか。
- 現在設定されている身につけるべき能力は、すべてデジタルを使う上での能力が定められているが、その一步前のデジタルとアナログを使い分ける力や組み合わせる力も必要ではないか。

【その他（新しいテクノロジーへの対応等）】

- 生成系AIが発展してきている中で、AIに対するリテラシーについても明示すべき。